

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 一枝 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月18日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）

教科に関する調査（国語、算数、理科）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問調査

児童質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	8.6	54	9.1	53
全国	9.4	67	9.3	58	9.7	57

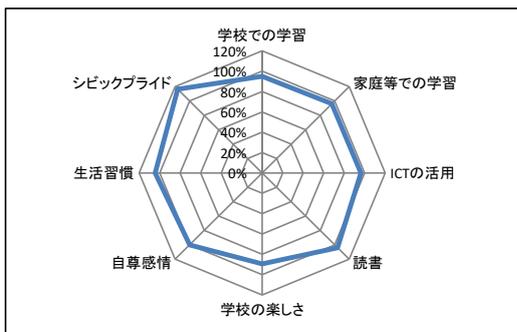
(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「わが国の言語文化に関する事項」において、改善が見られる。 (全国比R6: -10.7%→R7:+2.6%) 「書くこと」において、改善が見られる。(全国比R6: -5.9%→R7:+5.3%)	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	文章の構成を考える問題。自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題。	
	努力が必要な問題	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使うことができるかどうかをみる問題。	

算数	全体的な傾向や特徴など	「変化と関係」領域において、改善が見られる。 (全国比R6: -1.7%→R7:+0.2%) 「図形」領域において、課題が見られる。(全国比-4.2%)	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができるかどうかをみる問題。	
	努力が必要な問題	台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる問題。	

理科	全体的な傾向や特徴など	「生命」を柱とする領域において、改善が見られる。(全国比+2.7%) 「粒子」を柱とする領域において、課題が見られる。(全国比-1.9%)	全国平均正答率との比較 同程度である
	よくできた問題	花のつくりや受粉についての知識を問う問題。発芽の条件について、差異点や共通点を基に新たな問題を見だし、表現することができるかどうかをみる問題。	
	努力が必要な問題	水の結晶について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



全国平均を100としたときの本校の割合

質問調査の結果分析	
<ul style="list-style-type: none"> 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」との問いに対して約95%の児童生徒が肯定的に回答している。 子どもが主体となり、学ぶ楽しさを味わうことのできる授業が、児童の達成感を味わうことにつながるため、今後も学校全体で授業改善を進め、児童が「できるようになりたい」という課題意識をもち、授業後には「できた」「わかった」と感じることで授業にすることが必要である。 「授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」との問いについて、全国平均より割合が低かった。家庭学習を充実させるため、学校と家庭が連携して取り組む必要がある。 	

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

子どもが主体となり、学ぶ楽しさを味わうことのできる授業改善を学校全体で進めていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

家庭学習の重要性について、懇談会や通信等で家庭に周知し、学校と家庭が連携した取組を進めていく。小中校区目標達成に向け、中学校とともに、または小学校同士でできる学習を計画し、実践する。